

整理番号	HT 2 1 1 3 3	分野	数学（キーワード）方程式の解法
------	--------------	----	-----------------

四日市大学

日本の数学・西洋の数学

副題 高次方程式の解法をめぐって

先生（代表者）	小川 東（おがわ つかね）環境情報学部・教授	
自己紹介	わたしは大学と大学院で数学を専攻し、コンピュータ会社で人工知能の研究をして、大学に就職してからは江戸時代の数学の歴史を研究しています。どうしてそのようなことになってしまったのかは当日！	
開催日時	平成 21 年 8 月 7 日（金） 集合時間 10:30	
開催会場 （集合場所）	四日市大学 住所：〒512-8512 三重県四日市市萱生町 1200 アクセスマップ： http://www.yokkaichi-u.ac.jp/access.html	
主な募集対象	高校生 50 名	
内容		
日本の江戸時代の方程式の解法と、ヨーロッパにおける方程式の解法の歴史を紹介します。 (1) 江戸時代の日本人は 2 次方程式の解法の他に、算木とよばれる小さな棒を並べてもっと次数の高い方程式の数値解も求めることができました。今回はその方法を体験します。 (2) ヨーロッパではイタリアのカルダーノが 1545 年に 3 次方程式と 4 次方程式の解の公式を発表し大きな進展が見られました。その後多くの人々が 5 次方程式の解の公式に挑戦しましたが、1824 年になってノルウェーのアーベルが実は 5 次方程式の解の公式がつくれないことを証明しました。またフランスのガロアは一般に方程式が代数的に解ける条件を求めました。これらの歴史を解説します。 また、今回は数学の勉強法や数学者の研究生活について、研究者によるパネル・ディスカッションも行います。これは数学に関心のある高校生にとって、きっと参考になると思います。		
スケジュール		持ち物
10：30～11：50 受付		筆記用具，ノート
10：50～11：00 科研費と本事業の紹介		
11：00～12：00 江戸時代の方程式の数値解法 （講師：小川東）		
12：00～13：00 昼食		特記事項
13：00～14：30 ヨーロッパにおける方程式の解法の歴史 （講師：関孝和数学研究所・上野健爾，途中適宜休憩）		とくにありません。
14：30～15：00 ティータイム		申込締切日
15：00～16：30 江戸時代の数学勉強法・パネル・ディスカッション（途中適宜休憩）		
16：30～17：00 未来博士号授与・アンケート記入		
17：00 解散		平成 21 年 7 月 24 日（金）

お問い合わせ ・お申込み先	所属・氏名 庶務課・佐藤信行		
	住所：512-8512 三重県四日市市萱生町 1200		
	T E L：059-365-6588		F A X：059-365-6630
	E－m a i l：sato@yokkaichi-u.ac.jp		

★プログラムのテーマと関係する科研費

研究代表者	研究期間	研究種目	課題番号	研究課題名
小川 束	H17-H20	基盤研究(C)	17540137	建部賢弘の数学に関する研究



★この科研費について、さらに詳しく知りたい方は、下記をクリック！

<http://seika.nii.ac.jp/>

※国立情報学研究所の科研費データベースへリンクします。